

梅雨晴や雲切々に星まばら
紫陽花や線香くさき寺の門
植える田や晴より雨の賑やし
虹消へる雨に涼しき田圃かな
五月雨や届く封書の糊はなれ
母衣懶や罪なき夢にうかさるゝ
納涼舟ハシカチふりし人戀し
田五作の顔だけ黒き浴衣かな
髭はやす歸省の兄の浴衣かな

短歌募集

▲課題 隨意

▲切 八月二十日限り

▲発表 本誌上

▲賞品 三光に粗景を呈す

▲撰評 みどり短歌會

▲投稿 用紙隨意、字体鮮明、左記の處宛に送らるべし

伊勢國河藝郡稻生村

みどり短歌會

平和 眞宮起雲

幸なれや姫か優手に活けられて神のみまへに匂ふ白百合
獨たどる夢路はるか海原や山も見分かつたゝ浪あらし
終日にしなれし草木夕べ露にひとは信のいづみに活きむ
うなぬ等が唄ふ罪なき譜に和して眞白き髻の翁立ち舞ふ
エンセルの忘れがたみか翼生は御相宛然神にふさはし
朝顔は露にひかり得人は子の笑まひのそれに平和を見る
あさもやに壺の音こもり神苑の紅蓮白蓮にほひあふるゝ
青によし奈良のふるやに歌おもひ聞かば興ある子規かな
市に出て歌玉うらむ藝なし野のゆふへをば泣かば事足る
よるこびはあしたに開く白蓮と愛の光のそらに充つる時

讀書の葉

家庭 教育 繪ばなし

繪を見たりかいたりするのは、子供の非常に喜ぶ
ことであつて、殊に見る繪が自分等の平生親しく
知つて居るものであると、其喜は又格別である。
子供にこんな繪を興へることは、其美の情を養ふ